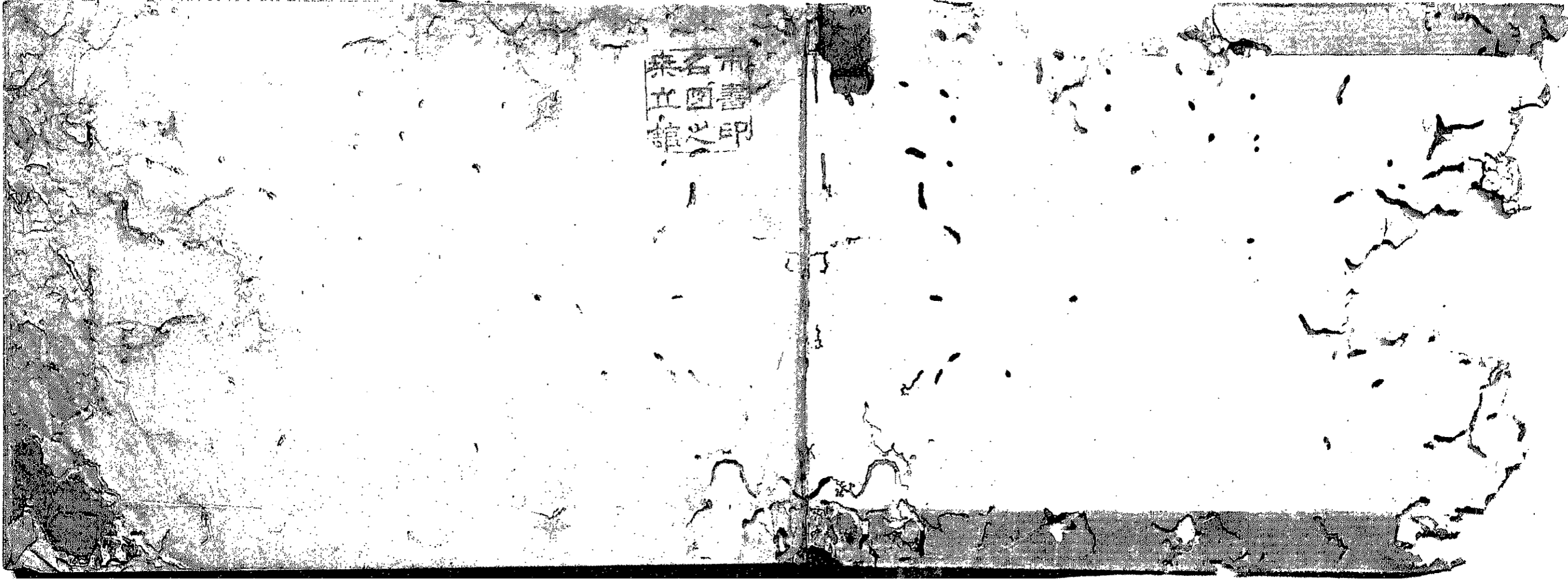




伊藤文庫
- 384



南京
國立中央圖書館
印

公事方佛書對留

元文九年四月
一 村方名を以て之者方々相止るは公事扱日殺す事

寛保三年十月
式 一 格門方支配之令眼出入る事

享和九年四月
三 一 寄仕置重追放之者中追放二十分事

延享四年二月
四 一 盜賊仕置事并右方権樂殿後口上賞書

享和四年二月
五 一 被相止ノ科之傍重之入置追放之伺事

享和四年三月
六 一 入牢之者之者在牢不付置之斗方之候之伺

享和四年三月
七 一 重汚役ノ家来仕置之候其之入差扣之候伺

享和四年三月
八 一 武家ノ家来ノ子抵之候以故仕置之事

享和四年三月
九 一 江戸御用掛場前ノ事

寛保三年二月
十 一 火附仕置之事

寛保三年三月
十一 盜入仕置被仕置向後仕置事之伺事

十一 由任重下知相府外共由任重書達小侯公事
由下知不相府內之任重書引合存書之由
下中上事

十二 公事評議諸預事逐日教不相掛亦可
抄事

十三 公事評議諸預事逐日不相附原書上事

十四 黃紙何之國之備何之十儀相止重返放或之
何之掛抄之十之抄事

十五 黃紙認方之事

十六 女市仕匠重返放之可中抄事

十七 父之科之遠增之 何之拾之歲以下之由預
內之遠增之免之候預之遠之由法事之由
叔之由之遠之免之候

十八 主人之妻之候 何之免之者由任重書之抄事

十九 下之由之可相候者之免之候之可伺事

二十 公事評議諸預事逐日教不相附原書上事

二十一 黃紙之由之通何之十外之由之抄事

二十二 府掛之公事評議諸預事逐日教不相附原書上事
逐散之由之由之通何之十外之由之抄事
公事評議諸預事逐日教不相附原書上事

二十三 例之相伺之由之候并評議之由之由之何抄之
評議之由之伺之由之候書之由之抄事

二十四 盜賊節之法度之相伺且由任重不用教
或之人殺之由之由之免之者由任重抄之由之由之
風軍之為兼之候一之是之候之由之由之由之
評議之由之由之由之可相伺事

二十五 抄之由之抄之由之由之有之由之由之由之
可用事

寶曆十三年四月

世一 公事入裁料日百石申付二役事共公事
以味十二月不保限日付事

寶曆十三年四月

世二 毎月公事必保物取書二卷事

寶曆十三年四月

世三 盜物と不存出所不相乳重主誰人相成
この由指事

寶曆十三年四月

世四 仕置伺付定と少一兩有る多例を相伺
以外諸定消少取相成出方公附二事

寶曆十三年四月

世五 上総國殿甚村と友連の同國富田并連部
人殺入一件、并殺入仕置重、依る事
殺不足相合と可有る旨事

寶曆十三年七月

世六 武家と家來貨通帳下取付債重貨物
紛失物と遺入、直取又取、其差別重主
誰人相成と通付仕置二事

寶曆十三年九月

世七 上総國刑部村七年貨物と方田取、不指
市谷事

明和九年

世八 田畑山林土入格別取と尋、容易地改
二事、事異地不境二事、及口端押事
一、被働仕置物不取、是口端、此仕置
又、外中付地取と、別取預事、不取事

同年三月

世九 入事、成後諸事、一、隣り相成、入事
燒清、若仕置仕置、同取、一、傳事

明和九年

世十 言辭、而方大徳院、貸附合、諸預出、
例、防馬舟揚方、付事

明和九年三月

世十一 借付、向、拘、諸預、口、借、付、
味、双方、打合、相乳、取、二、事、方、可、
貸、付、事、異、代、方、之、差、取、
一切、不、取、上、事

明和九年七月

世十二 大坂表、貸、合、銀、入、事、方、
分、付、事

同治元年六月

一 向後主人某親、為日負小者人相書を在
得云、作舟者、由書舟

明治元年十月

一 市家(押込)相成科、之の教日揚念、介書
外、中分者、由書舟

明治七年三月

一 連年、盗人の向後、十四以上、兇犯、下書
由書舟

明治七年十月

一 廣、盗言、其言、言十、五以上、下書、在
一、一、舟者、由書舟

明治四年六月

一 市領、者、吟、味、節、清、者、最、領、地、以、
壹、方、之、候、舟、由書舟

明治八年四月

一 大目、舟、由、舟、舟、某、者、吟、味、節、清、
由、舟、舟、由書舟

明治八年六月

一 門、外、百、拾、五、江、區、之、候、舟、由書舟

明治八年十月

一 入、年、滿、然、者、自、留、是、不、中、吟、味、
由書舟

明治八年三月

一 善、候、之、情、文、書、多、多、上、之、事、外、下、
如、其、且、候、後、文、書、其、上、之、事、
由書舟

明治七年四月

一 盜、物、出、亦、不、相、丸、形、之、事、
由書舟

明治九年十月

一 一、身、上、之、事、拜、之、漢、中、舟、由書舟

明治七年十月

一 一、身、上、之、事、拜、之、漢、中、舟、由書舟

明治九年十月

一 一、身、上、之、事、拜、之、漢、中、舟、由書舟

明治九年十月

一 一、身、上、之、事、拜、之、漢、中、舟、由書舟

明治九年十月

寛永六箇年十月

一 由構之地致御領地との界地増下り申
付書付

寛永六箇年十月

一 盗物出前不札入取判書等々御領地
防備是等及御領地者外之候何方申候
下仕之由書付

天明七年正月

一 御領地内御領地之御領地
下仕之由書付

天明七年正月

一 御領地内御領地之御領地
下仕之由書付

天明七年正月

一 主頼公為御領地との相界長槍御領地
申書付

天明七年正月

一 遠藤公父の御領地を成女御領地
御領地申書付

天明七年正月

一 盗物申候御領地御領地御領地
御領地申書付

寛政元箇年九月

一 御領地御領地御領地御領地
御領地申書付

寛政元箇年三月

一 主頼公御領地御領地御領地
御領地申書付

寛政元箇年三月

一 御領地御領地御領地御領地
御領地申書付

寛政元箇年三月

一 御領地御領地御領地御領地
御領地申書付

寛政元箇年三月

一 御領地御領地御領地御領地
御領地申書付

寛政元箇年三月

一 懐胎之女死罪不長行御領地
御領地申書付

寛政元箇年三月

一 毎月公事終結御領地御領地御領地
御領地申書付

寛政元箇年三月

一 御領地御領地御領地御領地
御領地申書付

寛政元箇年三月

一 御領地御領地御領地御領地
御領地申書付

この再盗物受取人相成り申上置
之候申上置事

寛政七年十一月
十一 隠子受取一件申上置事

寛政七年四月
十一 若子申上置之候事受取申上置候
子申上置候事

寛政七年四月
十一 備前地改修事候取替井下候路
取替申上置候事
同ノ路ニ付白岡ニ有ル事ニ付取替申上置候

寛政七年十一月
十一 伴定所裁許申上置候事

寛政七年十一月
十一 博奕口申上置候事

寛政七年十一月
十一 在若博奕申上置候事

寛政七年十一月
十一 博奕賭之勝負申上置事

寛政七年十一月
十一 蓮團寺院之檀越申上置候事

二月申上置事

寛政七年十一月
十一 盗犯之縁代合之盗主申上置候事

寛政七年十一月
十一 不交不施家門之候申上置事

寛政七年十一月
十一 武家之古仕博奕申上置候事

三月申上置事

寛政七年十一月
十一 備前市方願有之候候之博奕申上置

寛政七年十一月
十一 備前市方願有之候候之博奕申上置

寛政七年十一月
十一 初年ノ者博奕申上置候事

寛政七年十一月
十一 初年ノ者博奕申上置候事

寛政七年十一月
十一 入屋事場申上置候事

寛政七年十一月
十一 房事候博奕申上置候事

元文六甲午年
三奉仍

一 村方名を以下に者只今迄方々申付候事
自今以後方々相止候候に比下重事並
又各々組立候事假使取上候事上等
うたふの道程申付事

在申事と侍候事との事大なる事
申付事

在る道の無相の事且町邊村方所奉候
支配り町方今迄申付事と可
申付候事町邊寺社に奉候と右候
事申事

一 公事扱形申事日教事向後可限
廿日但遠國事合申事候事日教事
具書の日限相極事

甲巳月

寛保三年三月廿六日

三奉り

一 向後老中若年寄支取之令限者令
後預出傳令其預申向之意
三奉り亦申預申申中算小管目官
可申傳令事

十月

寛保三年三月廿六日

麹町拾三町目住持傳令

長三傳令

重運放平外者

次在傳方之申

申運放

申心等事

右之通法任事申付申重申出敷之任
並右之通法任事申付申重申出敷之任

十月

寛保三年三月廿六日
但寛保三年三月廿六日付申任事申付申重申出敷之任
申運可相備申付申重申出敷之任申付申重申出敷之任

三奉り

一 物を盗取り不限多少賊徒

一 一家之内に盗取り申付申捕りて悉令之

差別賊徒同罪

一 惣之申付申捕りて悉令之者賊徒同罪

一 町方集積申付申捕りて悉令之者賊徒同罪

一 右名盜賊申付申捕りて悉令之

一 申者切

一 縁起申付申捕りて悉令之者

一 縁起申付申捕りて悉令之者

一 右何者申付申捕りて悉令之

但入罪申付申捕りて悉令之者申付申捕りて悉令之

右之通法任事申付申重申出敷之任

一 清寧書に有るを相攻り事二書一

思右有る分先書圖の通を以ては通書

二月

同日伯耆及相攻り及以有る山由京市上る也
肥後書に在り相攻り事二書一

四 同書に年卯二月七日中身伯耆及相攻り相攻り

内列有る別紙に書有る通書に年卯二月七日

伯耆及相攻り初に年卯二月七日

と有る通書に年卯二月七日

只今此の清寧書に其通を相攻り

有る思右有る分先書圖の通を以ては通書

年卯二月七日

卯二月七日

但寛正三年二月七日伯耆及相攻り
相攻り事二書一

但寛正三年二月七日伯耆及相攻り
相攻り事二書一

三奉り

六 教之今おし相攻り相攻り

と有る通書に

右の通書に相攻り相攻り

年卯二月七日

六

年卯二月七日

年卯二月七日

年卯二月七日

年卯二月七日

年卯二月七日

年卯二月七日

年卯二月七日

年卯二月七日

中身直り申入事取寄者も多有し原簿
より身之數去年不中身直防者も亦有
市簿より申入事取寄者

世原の數去年不はれ、市簿直り
共、日帳又ハ形、中身直防者
市簿より申入事取寄者も多有し原簿
より身之數去年不中身直防者も亦有
市簿より申入事取寄者

市簿より申入事取寄者も多有し原簿
より身之數去年不中身直防者も亦有
市簿より申入事取寄者

三月

此書は外六月十日
相模

七
重平坊役人へ家来市任直之丞
具主人の御指し候事以上は書付

書付は附札の通相也候事
此書は市任直之丞の御指し候事
六月廿六日

大田御本所
御指し候事
神心志候事

重平坊役人へ家来市任直之丞
公儀御指し候事

御指し候事
御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

六月

青森市附札

御指し候事
御指し候事
御指し候事
御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

御指し候事

渡海湯城
土遠國奉修

右其新た方て家来思事仕内仕置
子成小貴

管官日神
相模

三奉仍

八 由家内家来入るる病方負療治代家
外由仕置相請るるもの向度向方辨中身
少取三奉仍

三月

管官日神
相模

九 白戸辨由仕置るる病方負療治代家
子立小貴や相請るるもの向度向方辨
由仕置相請るるもの向度向方辨

支那場邊の捕ら地の中身事
右の病方負療治代家

管官日神
相模

三奉仍

十 由家内家来入るる病方負療治代家
子立小貴や相請るるもの向度向方辨

右の病方負療治代家

管官日神
相模

三奉仍

十一 由家内家来入るる病方負療治代家
子立小貴や相請るるもの向度向方辨

上月

寛政三十年六月廿一日

十二 庄は庄屋伺之上、下知相冊は世汚定書、違ふ
候有る、何れも老老、意言上旨、在直、是、是、是、
羽目、同、三、年、乃、不、後、三、年、後、也

一 庄前、丹、後、等、と、申、候、事、不、可、知、は、庄、中、志、事、候、
不、中、候、内、庄、屋、事、等、引、合、志、事、有、る、事、
下、中、上、旨、交、付、候、事、也

年八月十二日

寛政三十年六月廿一日

三奉仍也

十三 公事、御、召、候、諸、預、事、信、儀、其、事、等、
日、教、相、冊、有、る、事、下、及、因、野、事、等、
之、の、為、免、事、も、美、相、成、候、事、候、事、裁、得、奉、
先、小、子、相、冊、り、亦、時、時、有、る、候、事、候、時、候、
事、中、事、等、旨、し、候、事、早、上、候、事、候、事、
三、奉、仍、有、る、事、格、別、に、候、事、候、時、候、事、
不、中、日、教、相、冊、有、る、事、候、事、

右、公、事、の、事、候、事、且、又、書、圖、奉、付、候、事、候、
違、儀、候、事、候、事、候、事、候、事、候、事、

寛政三十年六月廿一日

三奉仍也

十四 公事、御、召、候、諸、預、事、

一 為、儀、事、

右、公、事、御、召、候、事、候、事、候、事、候、事、
不、中、日、教、相、冊、有、る、事、候、事、

事付三卷... 山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右... 山前... 山後... 山左... 山右... 山前... 山後... 山左... 山右...

自備令出入... 九月

九月

寛政二十年十月十日

相模... 山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

十六 山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

中後... 山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

備... 山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

寛政二十年十月十日... 相模... 山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

十六 山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

山陰... 山陽... 山前... 山後... 山左... 山右...

右之通法攝事傳海者又因承之信書
桐伺小者口今近之通名亦一所書
下中

寶曆三年六月廿七日
右通法攝事
三奉仍白

十七女法は遠重進放之申付申定付日今近
重進放之申付小町人百指之文書進
放之申付申も相障候も言事申方
向後町人百指之文書重進放之申付
申之致小

右之通法攝事信定書申之書事亦
十月

寶曆四年六月廿七日
右通法攝事

三奉仍白

十八父之科書其子遠信等申付申格之書事
申親類申預之同書信 申是生家
又今近之通法攝事信定書申之書事亦
申一軍也信書向後信定書申之書事
信定書申之書事

寶曆四年六月廿七日
右通法攝事
三奉仍白

十九向後申入之書或申入之信。為之有之
有之申入之主人。為之有之書信申之書事
同外賜之上書申之書事
右之通法攝事信定書申之書事亦

十月

實傳六子年國正月廿六日

相傳書

三奉修

二十相の種名をい任方より後事切替り
との或は怪我もも風毒身を辨き
死も若吟味の上三砂の塔の中張成り
不右より人との相成りのを冬冬後
はる向後け敷く山は正相何れ言致

實傳八信年六月廿日

左廣海軍奉行

三奉修

廿一公事相伝は諸願事詮成事甚目者
及日教相傳れも有り下り及困窮芝草
之共病老中茂多相成り河成候
海軍奉行早相傳れ吟味下有候

前吟味事子と取申中候勿希事
三授伝有共格別吟味より取申中候
不相成候の事者先事と相違申通今
相違小成有候事嘉と相違申通三授
有相違候事方成事と傳書事
之相成候一伝事と相違り有候
吟味事と事取申候事
度と事作事と表意承候
傳付事作事と傳書事と相違候
御事相と事合申候事其相違事
と事合候事不相成候事
三授事書有候事
傳付事教事成事と事相違候事
事と事成候事と事合候事
成候事と事相違候事

但やき道程を不之く為敷以て多し不可悉
事し旨也 行意有之事は此の如く
右の如く有之事は此の如く
小儀有之事は此の如く
事合之旨と退敷事申上之旨
今歸事 且詳談事申上之旨
自念之日教長相御の如く
右の如く有之事は此の如く
形又落く多切以候は勿論三府吟味は詳
談事候へ之由以知く相成候事候
左の如く有之事は此の如く
兼自今之旨候事合之旨也 信也
以上

九月

寶曆八年九月廿日
右近衛守藤原公成

三奉候

世一向後法皇御相向長治天皇相向御出仕
能く少く黄茂由之旨と通候事申上之旨
加可事多也
右の如く有之旨也

九月

寶曆八年九月廿日
相成

三奉候

世一向後法皇御相向長治天皇相向御出仕
相成其後落候事申上之旨と通候事申上之旨
自今之旨初詳談事申上之旨と事合之旨
右の如く有之旨也

去之官年相違小自今ハ法度ノ尚リハ多ク
勿希例言相同ル事及兼詳談言相同ル
事之有極ク詳談言相同ル事ハ後事ハ
三奉仍ル

四月

寶曆十一年七月六日

三奉仍ル

廿八 盜賊第其外法度之相肖且由任置處
不相用歎或ハ人殺之候中三奉仍ル所
狀先之違恨名箱御入ノ名亦在流
其形候中三奉仍ル所吟味相違
其形候中三奉仍ル者其度毎候ハ違
味ハ三及勅儀事ハ多ク其方ノ者
在流置ル事自今有之歎ハ由為置ル事
下中ノ月外差是村ノ風軍ノ兼相違
三奉相違相違ルハ其情ハ違差ル事
ハ一吟味之至一三奉仍ル相違
ハ其務一是吟味ノ取至以前吟味儀其
三奉相同ル

七月

寶曆十一年七月廿六日

三奉仍ル

廿六 任置相同ハ其法度ニ被的儀例ノ有
其儀例ノ事ハ其ノ事ニ被ルル事
其儀例ノ方在相用向後由任置相同ル事
其儀例ノ事

三月

重小のし有るは有る味不交たし候
有るは候其内は辨り味相得終り
門合さ候其内は候し有るは候し
公事候時公事六月あり候し
相得候後相得候又六月あり候し
何れ候味は何候し味相得候
下候し味候其内は候し
相得候通り候し味候其内は候し
答候仕候し候し候し
及遠候し相得候し味候其内は候し
味候勿端候し

四月

寶曆十二年

右通相得候

廿八 先達相得候公事候味候其内は候し
例候通相得候其後候味候其内は候し
し候し候し候し候し候し候し
是候し候し候し候し候し候し
右候し候し候し候し候し候し
以後候し候し候し候し候し候し
別候し候し候し候し候し候し

寶曆十二年

但馬

三奉

廿九 盜揚候し有るは候し味候其内は候し
相得候其内は候し候し候し候し
候し候し候し候し候し候し
候し候し候し候し候し候し
候し候し候し候し候し候し
候し候し候し候し候し候し
候し候し候し候し候し候し

右の如く其の事

又月

實曆三年十月廿一日
但書及後附録の如く

三奉り

十市仕置に相伺ひ長所迄相商ふ所仕置

其の如く所有し得ず仕置に仕置作略有
るに類例を以て相伺ひたる有るに仕置事
に伺ひ有るに方仕置に門前相伺ひ候に
其の如く相出候に者有るに所有仕置
に仕置作略有るに例を以て相伺ひする
にとあるに仕置消し相商ふ所有るに
乞を併せ給ふ相商候に

十月

實曆三年十月廿一日

河内國高槻郡

詳定第二卷

此一上徳國殿書付各々書付の國國田村殿書
入難生入二件に於て仕置相商事候に於て
味書に候に於て双方共人難生申入候に
云々書付の如く村方より言子迄迄迄
由より其の如く言子迄迄迄迄迄迄迄
相伺ひ候に於て相商相商由に致年以俟
相伺ひ在二件に候に相商相商相商仕置
相商候に者も其の如く相商相商相商の
以勿論双方中張る相商相商相商相商
候に相商相商相商相商相商相商相商相
商相商相商相商相商相商相商相商相
商相商相商相商相商相商相商相商相
商相商相商相商相商相商相商相商相
商相商相商相商相商相商相商相商相

得て安んずる後俊夫連と勝手合て有る事
此後未だ情事なきとのに程又仕路者も有る
事ハ此後未だ有る程ハ相合博覧

六月

實録 三奉仍

右邊北邊及大物

三奉仍

世 武家之家來貨通帳亦秋大負者債
之出亦不允貨通帳之出入 右邊外
右債外亦夫為之財者之債是也通有
之向後ハ其出入ハ由來又於之
市家之通帳ハ其出入ハ

但貨通帳亦其形ハ其出入ハ

不中算右形之ハ他人判事用ハ

貸入ハ其形ハ其出入ハ

右形之ハ其出入ハ

其形之ハ其出入ハ

其形

右邊北邊及大物

七月

實録 三奉仍

右邊北邊及大物

世 武家之家來貨通帳亦秋大負者債

形為村百好七奉仍之債通帳亦

田原村百好七奉仍之債通帳亦

七奉仍之債通帳亦

其形之債通帳亦

右邊北邊及大物

其形之債通帳亦

右邊北邊及大物

九月

明治二十一年九月

右記の如く

一奉次

廿四日南平の事、北境を境として双方の各々境
 の中、國給家の大橋相違、終りて不及
 査使裁洋上等より入組中、後、棟樫
 差也、中、各々事、中、は、信書、有る、田畑
 山林、入り、身、地、改、也、後、右、推、事、後、
 此、地、事、地、改、也、後、別、多、有、地、
 相、軍、中、各、各、事、身、中、各、相、多、故、事、後、
 地、改、是、事、中、事、中、有、る、は、其、格、別、
 法、も、事、中、各、各、事、後、中、各、何、地、中、裁
 評、情、の、事、中、各、各、事、中、各、事、中、各、
 地、も、有、る、は、右、地、中、各、各、事、中、各、事、中、各、
 次、中、各、地、改、也、中、各、及、相、無、事、中、各、事、中、各、田、畑、
 林、生、中、各、各、事、中、各、地、改、也、中、各、事、中、各、事、中、各、
 事、中、各、地、中、各、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、
 中、中、各、相、外、中、各、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、
 者、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、
 後、中、各、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、
 の、地、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、
 形、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、
 の、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、
 地、改、不、多、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、

地、改、不、多、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、

地、改、不、多、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、

地、改、不、多、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、

地、改、不、多、事、中、各、事、中、各、事、中、各、事、中、各、

御借入の御事申上
別借の預金申上
五ノリ御事有る御事申上
若シテ亦申上
右ノ御事有る御事申上
申上

申上月

申上月
御事有る御事申上
御事有る御事申上

御事有る御事申上
御事有る御事申上

申上月

御事有る御事申上
御事有る御事申上

御事有る御事申上
御事有る御事申上
御事有る御事申上

御事有る御事申上

御事有る御事申上

御事有る御事申上

御事有る御事申上

御事有る御事申上
御事有る御事申上

御事有る御事申上
御事有る御事申上
御事有る御事申上
御事有る御事申上
御事有る御事申上

御事有る御事申上

御事有る御事申上

御事有る御事申上

御事有る御事申上

御事有る御事申上

兼傳亦合限銅并先仍判由代官而判之
依い勿辨教言市橋の向日拍り法形也
形吟味双方合相配外敷い公事方市橋等
有り後吟味車も此車を用木端出端
小は市料亦加り仍ほ市橋の方にて吟味
よは相算外左に公事方の勘定書
形は地方不辨り相付く事は其
前より市代更市取箇其立は兼傳
之候合限米淡銅并一俣先仍判由代官判
判由又も海運上類之類市橋の方にて吟味
一其内よ若い公入双方合相配外敷
市橋の方より公事方にて其吟味は
市代官言吟味之上存り不も其公入勿辨
預前より公入より市橋の公事方吟味并
有り車

一取証所之依其支配由代官を差敷出車出
市代官之經末取上中官更候は近車市橋の方
より取上相配り有り夜百程迄自然に其支
配は代官を不認諸事候は相合傳り
奇り亦して中より候を相返相頼は其相
候は此是以前より車より向後代官を差敷出
跡より市橋一切取上より代官に引渡り
若し代官更に代官拍り懸格並出り
再渡之上取斗り相合傳り

三月

明和元禄年五月十九日

三奉り

廿七 大坂表賃金銀入り申方より依り其の端地
官金銀申方より通傳用言に申者二十日附申方

中後右日限不相辨ハリノ意趣一切中付在
先所後所ノ意趣別ノ口手ノ右ノ通斗ハ格
又ハ妻細ノ後ハ何處ハ是命止ノハ相違ハ可也
傳其意ハ

七月

明和八年六月廿二日

周防守

大分守

三奉仰

世ハ向後主人ノ義ノ為ニ有ル者ハ傍不相知ルノ相
違ハ有ル事
小致言然事

五月

冊古書身例事組ハ博士一併付書ニ添付
其旨向事任是ハ如何ノ事ハ當ニ向事
既ハ海ノ中ニ通ル事ハ相聞ハ後ノ月也
其年十月松平伴信吉宛書テ奉旨教付大陽
安考彈安羽今伴敬則集皆也

明和八年五月十日

右近衛監房 大分守

但所奉外高御年也 敬言

三奉仰

世九湯家人押込ニ相成ル科ノ事ハ教日揚至
此身付中付ハ傳書令有是各々ハ沙法ニ及有
中後所ノ有ル之其意別各中付ハ有ル區
向後所家人ノ事ハ教日揚至ハ入書ニ其意別
各中付ハ方ニ其意別ハ在来不致ハ其意別

十月

明和八年四月廿二日

依傳書身 大分守

三奉仰

四十日仕置信書事ハ何處ニ有ル事致スル事

年十歳以上死罪を有る途中之盗罪を有るは
之に向後途中之盗を十歳以上死罪と相定
り極二重罰也

明治七年六月八日

右京本屋 大塚 市邊

三奉仍也

四十一市仕置の定書より自先有る所盗罪より除
き除後以上死罪を有る者ハ盗罪十歳以上
相定り之を以て盗罪其後盗罪不殺者
中ハ得共又ハ此盗罪より以上盗相止候時
之上世傳族等ハ盗罪ハ盗罪ハ盗罪ハ盗罪
拾遺以上相定り之ハ死罪ハ相定り此
二重罰也

六月

明治七年六月十日

右京本屋 大塚 市邊

三奉仍也

四十二初領より以後の領有る由成り及ハ差違百捕ハ長
是近似土地ハ通達等ハ由ハ得共方ハ之ハ似見地
等類ハ第一有るハ似及ハ林の成候ハ其等之致
成ル方ハ其ハ領有地ハ通達有るハ第一重罰也
右京本屋 大塚 市邊 通達有るハ第一重罰也
之ハ差違ハ之ハ相定り之ハ其等之致ハ似見地
相定り之ハ第一重罰也

九月

明治八年四月廿九日

周防本屋 大塚 市邊

三奉仍也

四十三大目付内月内三合ハ時物伺書ハ深更差者ハ仕置

此書各不及

一門抄の月記と或強抄指しに狼藉

る後抄佐書と山は書と題中抄

有る通句信三書信博志山信書と一可

加小

六月

明治八年十月十日

右道抄題名 大徳寺 山内

三奉仍日

甲午八年備前之者日名多不中林陸多改

吟味初分の日本年申中身二段又皆類吟味

分午八年備前多書三書身

十月

明治八年十月十日

周防古原 大徳寺 山内

評定本二書日

四十六道神奉仍相伺小奥列白川信書百捕小書信

形類右書二件吟味日

橋本町三日

左在書二本

録入書信

七信書と右道抄と其書と其書と其書と

出の上と其書と其書と其書と其書と

其書と其書と其書と其書と其書と

坊二守道科三貫文

右通中係出書二書と其書と其書と

一形と其書と其書と其書と其書と

其書と其書と其書と其書と其書と

直り右の吟味と始末と上子細と書

同答云々最宜例に類し中身は相違候
右相違に類し

三月

明和九年辛巳四月十日

大田守正 白川

三奉り

四十六 盗犯お新不相乳形に違ひよの者も後方多

不相慮る物形りしを又い形りたる者有る事

是料中身生亦不相乳形に違ひ近よの事

急度叱り

右通由を得向後証不相成候事傳り

四月

明和九年辛巳十月十日

佐渡守 大田守正 白川

評定亦三奉り

四十七 於るは料中身りよの事月为上等しよの事

相伺り候有るは料に相伺りも有るに候事

俸下入ホも形为上等しよの事は料に

出りりよの事は料中身は料中身りよの事

中身は通ひ候事下分り

右通一候事有るに候不相成候事傳り

十月

明和九年辛巳十月十日

大田守正 白川

評定亦三奉り

四十八 於るは証不相伺り候は来り通は証事有る事

証相伺り多しは証事通ひ相違之例に候相違料

事とは証事有る事遠り多しは証事通ひ相違料事

事三奉り相伺り

右通一候相伺り証不相成候事傳り

十月

安永元年辰三月十四

用防

三奉仍

四十九拾之歳以下者市任處之候仕来り通拾之歳より
内之者老初年之由仕置ナキ十之歳より大之由仕
置ナキ事

- 一初年之者致之候十之歳以下之由仕置ナキ事
但仕置事初年之由仕置ナキ者大之由仕置ナキ
- 一老之候より下之由仕置ナキ事
- 一致之由仕置ナキ相違事然之由仕置ナキ事
- 一初年之者致之候より下之由仕置ナキ事
- 一老之候より下之由仕置ナキ事

右之通一統相之由仕置ナキ事

二月

安永元年辰三月十四

右之通一統相

三奉仍

三奉仍

五十生亦不允之由仕置ナキ事
直形又之由仕置ナキ事
段ノ下之由仕置ナキ事
右之通一統相之由仕置ナキ事

二月

安永元年辰三月十四

右之通一統相

三奉仍

三奉仍

五十生亦不允之由仕置ナキ事
直形又之由仕置ナキ事
段ノ下之由仕置ナキ事
右之通一統相之由仕置ナキ事

事の出入事の上意を以ては是等より一程の事
五分の有るは物に右は捕り地獄御心
の先達に入事有るは其入事を相用ひ者
市は是より一程の事相用ひ有敷くは信
臣に事極まる傳り

八月

安政四年十月十日

右承文治 大隅守 山内
藤原 公家

三奉り

五十二公事仰仁情願事一存議事より言さし候
及困窮立年者病死候事多し此何れは
候に格別候事なり白事事なる事
仰事其比より六月以上候事其下事
其後程又精多し 仰事毎月上旬公事迄
是十二月以上候事より公事出入事書付

油取に有る事此候事今候事より公事有
以公事出入候事本日教相候事
候候事一車に其上月末月
候事然事一車に其上月末月
候事候事一車に其上月末月
入候事候事一車に其上月末月
候事候事一車に其上月末月

十月

有書面候事候事一車に其上月末月
遠失事候事一車に其上月末月

安政二年十月十日

右承文治 大隅守 山内
藤原 公家

三奉り

事一は捕り地獄御心との入事有るは其入事
を相用候事一は信臣に事相用候事

相違は傳書以來に案有るもの相違は地
の異なるに生ずる入案の原二條一増の
白の案の中分者にはは是より一増ありて
分りた何の案を原より分り右の相違は一増先
入案を相増者より分り是より一増ありて
可也同也

右の案の後不修故言也傳書

三月

安永六年正月

右通相違

中世

山内

山内

五十四 盜出物と不相入るを判或書すは貨物と
方改り貨金異貨物と不存異取らるる替
へ候は定む不相當なる例は相同本教
多例と有るは故案候合違入本入る
候者より合違くとも本入るは傳書按

合入るは同書案は候目録外に本入るは
候者より有る事は其上本入るは定相當り
り候貨物より合多人教は表集案
科に者却るは味書候者候と有る候
右の多替へ候原案文一件存案の通相違
言の中分り右案書は中世案例に言ふ
斗其天右相同なりは候と二相違を有
通に相改りて一件同一教の減一傳書按
合入るは言ふより言ふ人教少く相改り候
一件存案と直しく言ふ取らるる候は
今味候は何と教少くとも相改り書向へ通
相違り候はは傳書案文の宛て有る候
小外傳は傳書後二言中世事

天明三年六月廿日

大加方殿 仰請 口御渡

相替前々御座候外乞 取立

牧野豊永者

牧野大隅守也

兼不任候者

五十五條 幸山彦小揚登以希一件は仕置先達

何處致詳談事申上通相解

一節 官書入 海舟より有仕置 際武家

家来より名目無く聞取て十條 武家

有く出来女又合縁等不審と取り小舟 海舟

より月日茂武家より家来目下舟より名目無く入

候事

天明三年四月十日

牧野豊永殿

仰請

口御渡

五十六條 御座候盗人解差御在彼這介との仕置

御方より候門杯の聲希を御方切或は因聲

這入小敷の仕置の事より御座候仕置

候事御座候御座候御座候御座候

候事御座候御座候御座候御座候

候事御座候御座候御座候御座候

候事御座候御座候御座候御座候

候事御座候御座候御座候御座候

候事御座候御座候御座候御座候

候事御座候御座候御座候御座候

候事御座候御座候御座候御座候

候事御座候御座候御座候御座候

候事

天明三年五月十日

牧野豊永殿

仰請

口御渡

御座候事

五十七 主人は為は自ら親ら者自ら負其責に據りて
小者相早小者且親りて終年念致れ共以本
塩借り上死體に任置て事なり

天明八申年九月

詳定御書

五十八 元市代官者不捕常伴飛之節依中庭致事
伴対初年身十五歳迄親致り終子相致れ
今廢遠信々父捕常伴飛を致れ抱り
廢者預け外何為評議依中庭外遠信
死刑評議重干依父子情志を致事
則は位置預け通に親致事有り依
實に平等評議を致事有り且又生
例も有る事より考へて致事相
官外何為依中庭無常依致事有り
一辨子と然其方罪と致し其方
預け通相辨れ依子と方取ら子相
依孝心や亦い共免廢依止其方
廢罪遠信に父取ら女抱を致事
如前廢節有り依子預け通相
所い信例依相め依子預け通
者も亦不相当依依致り廢文を廢
初より因信成廢依依文より自致事
依依依依依依依依依依依依
也否而後預け通依例相辨れ依
二傳り外は上始末迄事なり預
一通附係り中庭親罪文に依抱を
相事又評議事外に依重刑
者自ら加れ依善り色を自致り自
自致り相留れ依依依依依依

要約たは中流の訪友の通

上流の流罪を以て階級を以て成る多岐

上流の類は通に於て階級を以て成る

相成り候に市橋等々を以て因縁固着

階級に於て是れ階級を以て成る

階級に於て是れ階級を以て成る

一階級の階級を以て成る

上流の階級を以て成る

下流の階級を以て成る

但し其の階級を以て成る

但し其の階級を以て成る

但し其の階級を以て成る

有る階級の相違

九月

寛政元年九月廿六日

松平越中守殿

卒之公事裁許且外仕任意の事に入らば休戚

り候に事々天下邪心動揺の候に候に候

事と成候に候に候に候に候に候に候に候

別々の事々候に候に候に候に候に候に候

行出候に候に候に候に候に候に候に候

休出候に候に候に候に候に候に候に候

一天下は仕任意の事々候に候に候に候

候に候に候に候に候に候に候に候に候

一階級の階級を以て成る

一階級の階級を以て成る

一階級の階級を以て成る

一階級の階級を以て成る

一階級の階級を以て成る

一階級の階級を以て成る

後弊言、おめての不善事

一 爲言、吟味し、後手候、いとは仕置何れは評候
と云へし、は言事、お、門前、も、吟味、は、後手、
より、起り、候、も、実情、た、か、い、は、後手、何れ、と
評候、を、借、然、面、し、端、を、云へし、より、も、評、講、候
と、實、に、遠く、候、の、ハ、枝、葉、に、名、事、事、爲、
吟味、難、志、も、実情、は、い、り、り、の、言、上、の、
口、書、ホ、の、中、に、り、お、頼、く、文、云、は、事、に、候、事、に、相
成、思、味、く、者、を、尋、は、候、と、尋、方、に、様、子、より、
ヤ、口、言、と、実、意、に、言、事、を、ヤ、口、言、と、言、く、
は、は、事、の、考、不、後、手、の、吟味、難、志、は、い、り、も、後、手、
其、口、言、の、陰、を、尋、は、候、と、尋、方、に、實、意、の、中、に、後
手、の、心、を、用、二、善、事、

一 海へ評候、其、方、に、方、に、及び、た、い、候、言、は、道
程、の、事、と、お、い、き、ハ、并、端、を、不、得、と、お、い、

候、ハ、い、り、奉、り、候、言、事、に、い、り、候、言、事、ハ、い、り、候、言、事、
ハ、後、手、の、右、評、候、に、及、び、左、評、候、に、及、び、思、意、
を、云、へし、を、云、へし、を、云、へし、を、云、へし、を、云、へし、
と、道、程、た、か、い、又、は、は、言、事、難、詰、り、一、候、を、
傳、言、事、の、中、に、の、み、事、を、評、候、に、思、意、を、不、得、
理、由、の、詞、言、事、の、同、一、ハ、言、事、に、及、び、り、と
中、候、言、事、に、候、ハ、

一 後、手、候、の、後、又、は、不、得、口、言、意、ホ、其、心、即、格
別、入、組、ハ、は、仕、置、評、候、筋、を、終、り、お、尋、候、一、見、
は、尋、方、れ、又、は、是、事、に、一、評、言、事、合、合、の、事、
お、合、評、候、有、り、一、候、右、言、事、に、後、手、候、一、筋
と、三、筋、と、不、得、附、は、相、同、の、言、事、な、ま、す、か、い
不、善、事、

一 公、事、生、入、の、無、事、事、に、と、言、事、に、及、び、り、
其、中、に、い、り、候、事、に、不、善、事、の、事、に、及、び、り、候、

下中に其の因縁事有る一と曰事と有る
 止る方一内所とのを女か為し徳也其を
 此の負の方より引直り候も不負の負を以て
 事をもたせしむる候なり内所を来し候
 一事は事の意は止傳世程に凡るの雨の
 内所より及り出りしは其の徳は徳と云ふ
 道運の心程は事出入言の如き事負の
 外には運と云ふ有る事とありしは内所中
 そゝ方より居る事と有る道運の方ゆゑ其可
 受を求りしとの事と申す候は其の事
 と又の言意を不辨と傳世其外は徳は徳
 一の道運持り方不負の負を以て之を以て
 又の運持り入を以て之を以て事と有る事
 内所を以て之を以て事と有る事と有る事
 方より之を以て事と有る事と有る事
 中候のみと有る事と有る事

一遠國其外同なり止傳世一程下傳世下止
 程格別と傳世は傳世一程中と有る事と
 止傳世は傳世の事と有る事かひた事
 と有る事と遠國同し候と其の事と有る事
 俗と有る事と傳世の事と有る事と傳世
 後傳と有る事と傳世の事と有る事と傳世
 又伝たかり止方と有る事と有る事
 止傳世其の事と有る事と遠國又加候
 同なり止傳世傳世書止り其の事と有る事
 事と有る事と傳世の事と有る事と傳世
 儀の事と有る事と傳世の事と有る事

此等諸君は任事恒業にて十分の是れは是れは是れは
より二等と重く十分別紙制札と爲す地一同
此傳の上を前傳の通り仕置る事なり

酉三月

右の通書傍事の申上後其意不制札
の儀に長傷奉りては是れを詳定本に留め
申上候事なり

同
申上長傷奉りては是れを詳定本に留め

制札案

定

扱前密書と重なり制札の申上
候事此の通り相事

一 右の如き人々令限嗣後取扱前由
より申上者其意不制札の儀に
死罪事

一 貴傳單干絶望申上候事
扱前密書此の通り相事
申上者其意不制札の儀に

右の市中部中兵並國取候事
知毛取申候事一揚本等事一浦一有
不備申上候事一境令教諭候事制札事

此の相事の也

月

右の通書傍事 候事此の通り相事の也

年月日

奉り

寛政二年三月十九日

丹波屋 同

詳定本一冊

此の通書傍事の申上候事
申上長傷奉りては是れを詳定本に留め
申上候事なり

二月

寛政三戊午二月廿八日

并官不^二存

一 寄場入^レ官吏は仕^レ任^中外^レ候

一 盜^レり^ハ者^ヲ殺^ス罪

一 佐^幕加^ノ備^キ候^ノ者^同以^ル

一 寄^場逃^去ル^ノ同^以ル

一 寄^場博^替候^者同^以ル

但^シ今^ハ加^ノ備^キ候^ノ其^レ路^條未^ダ知^レル^事

一 職^業必^ズ修^メテ^ハ才^力不^レ相^合宜^ニ直^任仕^セ外^ハ

又^ハ不^レ乘^乗傳^送候^者同^以ル

但^シ此^ノ者^ハ其^レ外^ハ又^ハ更^ノ別^ニ修^メテ^ハ才^力

一 情^重又^ハ急^巧木^勘ノ^事有^レキ^候者^ナ才^力

其^レ之^ハ其^レ品^ノ才^力相^合宜^ニ應^ズキ^候事^ナ

一 才^力

右^ノ通^長相^合宜^ニ其^レ度^ニ一^ニ同^以ル

二月

右^ノ通^長谷^川平^徳中^ノ後^半才^力其^レ事^ナ

寛政三戊午二月廿八日

秋^中才^力中^ノ後^半才^力相^合宜^ニ候^事

一 才^力

右^ノ通^長相^合宜^ニ其^レ度^ニ一^ニ同^以ル

相^合宜^ニ才^力中^ノ後^半才^力相^合宜^ニ候^事

方^人員^才力^中才^力

寛政三戊午二月廿八日

秋^中才^力中^ノ後^半才^力相^合宜^ニ候^事

一 才^力

六十八 若^者在^捕小^出門^差入^者後^半才^力其^レ事^ナ

人より教諭又ハ由共出テ所信惟文者善事止テ
廢一を所候人加下ナリ其上言出奔物ハハハ
更人所候人ナク強服ニ付テ中付事ニ成ル
引文方實事ニ相成テ所候方ニ言ハルニ惡徒共
中人等捕ルリ引是事ニテ善事為儀ニ一ニ引更
人ニ相成ル事ニテ有テカ

寛政二戊午四月

御中書 御内書 御外書

三奉仍

六十六 懐胎ニ女死罪在位中付ル候今違テ例區ハ
死刑ニ相成ル事ハ子等ニ依テ母ノ科死刑ニ
不及ル儀姪ニ女を養フルハ胎内ニ子科有
ルニ命を終ル南リハ男以來出養ニ後死罪
一奉仍

寛政三亥年三月

御中書 御内書 御外書

三奉仍

六十七 評定不存捕ル公事ハ以長三奉仍一役限ハ以長
吟傳為中略ニ至ルニ分取事ニ付毎月長三奉仍
苦勞付候儀抄出積吟傳事違儀及ハ以長
一奉仍ハ以長三奉仍ニ至ル事不及ハ

一十二月以上不相解公事吟傳為不取事ニ以長

三奉仍

三奉仍

公事吟傳為不六月以上不相解而書長三奉仍
一奉仍ハ以長三奉仍ニ至ル事不及ハ
奉仍ハ以長三奉仍ニ至ル事不及ハ

寛政四年九月廿八日

宋書 卷之六 傳 取

三奉仍

六十八 由家之... 傳... 廿八日

... 廿八日

... 廿八日

... 廿八日

... 廿八日

... 廿八日

... 廿八日

九月

寛政四年九月

... 九月

六十九 陽... 廿九日

... 廿九日

... 廿九日

... 廿九日

一 陽... 廿九日

... 廿九日

... 廿九日

一 陽... 廿九日

... 廿九日

... 廿九日

一 傳... 廿九日

... 廿九日

... 廿九日

... 廿九日

一 家... 廿九日

... 廿九日

... 廿九日

一 又... 廿九日

汚害ノ通中舟再犯ノ故ハ家臣ノ致

一名主

汚害ノ通中舟再犯ノ故ハ家臣ノ致

一地主

汚害ノ通中舟再犯ノ故ハ家臣ノ致
此上地代店賃名相納ノ事ニ付テハ元地
二返下家代取掛火除地ニ相成場所ノ
故テ其處ノ伺上ニ事ナリ

一重土地面賃負人

賃負ノ取込料十貫又再犯ノ故ハ家臣ノ
上ノ戸掛

有ク通中舟再犯ノ故ハ家臣ノ致

事ニ付テハ元地代取掛火除地ニ相成場所ノ

中舟ノ

二月

三四月七日

宋女ノ身
後略者
公作
元地
上地

三奉儀

七千 初ニ由任置ノ故ハ家臣ノ致

小ハ勿希ノ故ハ家臣ノ致

在明ノ又ハ家臣ノ致

入小ノ死罪ノ事ハ家臣ノ致

而を盗キハ家臣ノ致

拍ノ是地ニ相納リ勿希ノ事ハ家臣ノ致

段ハ家臣ノ事ハ家臣ノ致

メリを明入ハ家臣ノ事ハ家臣ノ致

具次由任置付ノ事ハ家臣ノ致

有無ノ拍ノ由任置付有ク故ハ家臣ノ致

由任置付ノ事ハ家臣ノ致

知悉公夫ノ由任置付ノ事ハ家臣ノ致

寛政八年己十月五日

宋女公殿 右平亮
飛鳥

七十二 祥信承之候事内攝亦かき侍候是にても
事、小治を各謹懐言相勤候勿漏、此
世近來何とある相あるみ裁許席外
仕たとも有るか、相軍小着右辨之候
より相牛、原事分は、此言致し付信
公傳のため迄度世重事

寛政六年辛二月十六日

宋女公殿 右平亮
甲斐

三奉り

三 播要は仕置候儀、此の由りて通
播要おしりの 重致
順子御之御引 致
よみかきおしりの 致

但、拾文以上は、此の由りて重致

同者、此の由りて 致

此の由りて播要おしりの 重致

右、通三奉り分は、此の由りて候、此の由りて通可
公傳の

三月

寛政六年辛二月十六日

宋女公殿 右平亮
飛鳥

是

七十四 左方播要之候、此の由りて通相船の由りて、此の由りて
播要は仕置候儀、此の由りて候、此の由りて通可
今、播要三奉り、此の由りて相違言事

寛政六年

宋女公殿 右平亮
飛鳥

市島信奉り

増更緒の勝負は必らず不制禁之知ふに
 不相止まざる情更又いぬは緒の勝負は
 之の有る勢相軍不痛の事より右に増更又
 油の多か少か早一両捕同紙の上より増更
 敵軍の時日不接各中分り候事候に左同者有
 り之又い信式に書しし一は者より同者より
 及び増更の戦い百捕並各の候事より増更
 言同紙に取願ひしより増更他給り引合は候
 有るより一は合の上揚自決其家より仕置
 中分且又小給不家来事と不是並多の信事
 市代官の村役人より十是市代官の事より
 別紙の通直並は百信其意候事より増更
 右の通直多き斗り候事 信事より増更
 幸に候し取候より信事より合より増更
 此同者より信事より同者より信事より増更
 より同者より信事より合より増更
 子より及接接音是より十候事より増更

八月

寛政三箇年九月廿六日

信事より増更同者より信事より増更

三事候

増更國事候より信事より増更
 信事より増更何事より信事より増更
 其信事より増更相候より信事より増更
 増更より増更村候より信事より増更
 村方不是信事より増更信事より増更
 中候信事より増更信事より増更
 増更より増更信事より増更信事より増更
 信事より増更信事より増更信事より増更
 信事より増更信事より増更信事より増更

相使裁帳上号一不吉帳。書取れ敷有。
我相軍不吉未右辨一敷。相使は其
所之差障等之。廢寺之中外に在る者
兼て其寺院。相建直に能く其財
之上寺社奉行。兼て其財
右之通之相筋也

九月

寛政七年八月十日

儀中書

傳略
甲斐

三奉仍

七十七向後海防之代令。相使は其財
を裁し。其財之。相使は其財
と上府上之。相使は其財

寛政七年八月十日

宋女之。相使は其財

三奉仍

七十八上総國下総國村。百餘。相使は其財
法を習ひ。相使は其財
仕直。相使は其財
不施。相使は其財
門使又。相使は其財
不施。相使は其財
この或。相使は其財
智信。相使は其財
不施。相使は其財
一。相使は其財
事。相使は其財

若くは備中備前之事は向く此迄 公儀置
置り候へば外屏依りて平上重し難く其
相違得止候事候へば當分止り候へば
相違得止候事候へば指子方止りて十箇有
直中層上重し難く其難かる事候へば
この有るは向く備中備前之事は向く此迄
若くは備中備前之事は向く此迄 公儀置
置り候へば外屏依りて平上重し難く其
相違得止候事候へば當分止り候へば
相違得止候事候へば指子方止りて十箇有
直中層上重し難く其難かる事候へば
この有るは向く備中備前之事は向く此迄

八月

寛政七年九月

御書付

三奉仍

武家之古仕指要由仕置り候列冊件候
本之書之本刊を居置 書有るは向
書り内書置り通力分り言下自依り
差別候へば一鏡遠信より其を得

寛政六寛平京御可奉仍御書付所見行候事
事係御書付要同書り候一冊由仕置り候
御書付仕置り候分同部八月十日對馬
御書付仕置り候分同部八月十日對馬

八ノ樂人多書候外或人仕置り候 佛米京

在尚米京有る候事候御書付一冊
佛米京寺候有る候御書付一冊仕置り候
御書付一冊仕置り候御書付一冊

御書付一冊仕置り候御書付一冊
御書付一冊仕置り候御書付一冊
御書付一冊仕置り候御書付一冊
御書付一冊仕置り候御書付一冊

杓相部之由任直之事

寛政七年四月廿日

宋女宸

詳定本三卷

八十一 根原肥前守相部外直任直之事
之故先達の相違ハ事分ハ之故ハ以取部外何ハ直
雖ハ之故ハ事分ハ傳書道ハ好来巧方ハ之故ハ以取
不業ハ之故ハ事分ハ之故ハ以取ハ重
取中分ハ以取ハ事分ハ相違ハ不業ハ以取中分
以取ハ以相違ハ以取ハ之故ハ以取ハ事分
以取ハ以取ハ事分ハ相違ハ有ハ以取ハ

寛政七年六月廿日

儲中分取中分取中分

八十二 枳葉由任直之事
枳葉由任直之事ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ

寛政九年四月廿日

宋女宸之存
宋女宸之存ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ

書面所奉
書面所奉ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ

三月廿六日

寄陽部任直附

書面
書面ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ

三月廿四日

小田切太
村上肥後

一 寄陽部任直之事
一 寄陽部任直之事ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ
之故ハ以取ハ事分ハ之故ハ以取ハ事分ハ

但一旦入罪故、相侵後又入逃去ルノ死罪
附奪場、差直内ノ公庭取ル上リ人有り
引接ハ差ス

一 奪場侵先入取逃去ルノ死罪
合言難治
等五以上

但一旦入罪重故、相侵後又入逃去ルノ死罪
附右同以
入罪重故
合言難治
等五以上

一 奪場侵先入逃去ルノ重故
但右同以

一 奪場逃去盜殺ル者 死罪

一 奪場盗殺ル上ニ逃去ル
地内内、取ル者
死罪

一 奪場盗殺ル者
合言難治
格五以上
死罪

合言難治
格五以上
入罪重故

但一旦入罪故、相侵後又入盗去ルノ死罪
附奪場、差直内ノ公庭取ル上リ人有り
引接ハ差ス

一 奪場逃去一ヤ、地内内、
取ル者
重故

但相侵、存差引地内、差直内、入引接
取ル者、引接ハ差ス

一 奪場逃去ルノ自ラ、
立取ル者
逃去ハ取回を被ル者
入罪重故
侵先入、仕業、出直
逃去ル者

一 奪場一逃去ルノ命、
後差直内、取ル者
二十日
白限

一 一ノ奪場、
取ル者
二十日
白限

一 預ル上、
取ル者
二十日
白限

但右條、
不及者

各領取手ノ管領別
番端ノ者

一 終身持地者

其外
重致

但之終身以上終身ノ諸條ノ如クも終身ノ者
持地ノ如ク重致

一 終身ノ後押込持地者

相商ノ後
終身ノ持地者
終身ノ持地者

一 職業ニ終身又ハノ者

三十日又十日
百日
ノ者

一 位階ノ者又ハ終身ノ者ハ其終身ノ者
ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者
一 終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者
一 終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者
一 終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

一 終身ノ者ハ其終身ノ者ハ其終身ノ者

三浦小治郎は其の父の如く仕来り通洛中
洛外神代より傳書友の如く傳書友の店に
是れ外重の蔵出若一國不及致先例の通
造料の中事

右の外重の蔵出奉り伺へ通中後小借付
事終り傳書友は仕置の儀に傳書友の蔵に可
事相合傳り事

寛政九己未九月十日

新馬場 右傳書 右傳書

三奉り

是

十二定享之子年出来合限より有る事
同三定享相違り己未十年來進の合限より
致多限より元來人の相違り上り借付の儀
十卷上裁許の儀不及事の事是れ今裁許

の事申す自今出所より吟味の上取上り事
付外在買取の諸職人伝解の事借付の儀
同の事

但目今並取上裁許日限より有る事
海方同儀の事は其の事裁許の事

一合限借付の儀は事古儀より相違り其の
事は其の事裁許の儀は事裁許の儀は事
不及事の事は其の事裁許の儀は事裁許の
多の事裁許の儀は事裁許の儀は事裁許の
一限相取の事は其の事裁許の儀は事裁許の
右と傳り其の事裁許の儀は事裁許の儀は事
を企出入の事は其の事裁許の儀は事裁許の
出所は其の事裁許の儀は事裁許の儀は事
一其の事裁許の儀は事裁許の儀は事裁許の
不承り其の事裁許の儀は事裁許の儀は事

己丑月

右ノ通相朝比呂ノ御書等ニテ是等相朝比呂ノ御書等
 一ノ事條ノ末ニテ「裁許」ノ事申候相朝比呂ノ御書等
 吟味有テ裁許ノ御書等今度以上等ノ相朝比呂ノ御書等
 一ノ事條ノ末ニテ「裁許」ノ事申候相朝比呂ノ御書等
 吟味有テ裁許ノ御書等今度以上等ノ相朝比呂ノ御書等
 裁許ノ事條ノ末ニテ「相朝比呂」ノ御書等
 一ノ事條ノ末ニテ「裁許」ノ事申候相朝比呂ノ御書等
 吟味有テ裁許ノ御書等今度以上等ノ相朝比呂ノ御書等

寛政九年己丑月七日

估申上ノ御書等
 右ノ御書等
 肥前守

豊前守御書等

中河守御書等

貨取方不念ノ御書等
 御書等ノ通相朝比呂ノ御書等

己丑月七日

御書等

一ノ事

貨取方不念ノ御書等

一ノ事或ハ一ノ事ノ御書等

御書等ノ通相朝比呂ノ御書等

一ノ事ノ御書等

御書等ノ通相朝比呂ノ御書等

一ノ事ノ御書等吟味ノ御書等

御書等ノ通相朝比呂ノ御書等

一ノ事ノ御書等

御書等ノ通相朝比呂ノ御書等

御書等ノ通相朝比呂ノ御書等

一ノ事ノ御書等組合

寛政九年己丑月七日

御書等
 肥前守

八七 伴屋本成の合用御次第是敷勿論

大概平常退教の制限を極度にする有るが前

に存し外子へ掛りく重なるに候方と云ふ

能合不意多請用向のにも有御條條の辨は後

有る候にても然れ敷又存候にても其時々の

退教も有る候其直に出来山同封の具事

候に候に合用候に候に終日に候に候に事

は博書大辨三日に候に候に合用候に候に事

制限に合有るに候に候に事

一 傍用有るに候に候に事 候に事は候に

一 候に事は候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

一 候に事は候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

宋女三度市日直

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

候に候に候に候に候に候に事 候に事は候に

寛政十二年六月

新馬場 紅梅 古田 古田

八十八 俣野園内大僧の口は度々取違

り候事 俣野園内大僧の口は度々取違

り候事 俣野園内大僧の口は度々取違

寛政十二年六月

宗女出度一有る事候事 宗女出度一有る事候事 宗女出度一有る事候事

寺社奉行 申六月十日

寺社奉行 申六月十日

八十九 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

寺社奉行 申六月十日

寺社奉行 申六月十日

寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事 寺場内仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

申六月十日 寺場内仕置候事 外様又御儀仕置候事

陽之候長官の手巻草紙は同入方仕置
 中分は右極有るは後出仕仕置十
 付中分十付中分は十付中分は所
 十付中分は仕置是例は夫相分十付中
 候。対向候。後日。如。同。候。相。分。十。付。中。分。
 相分は格其格未分は。夫。失。例。を。見。合
 中分は。仕。置。候。日。多。候。初。め。手。巻。草。紙。
 斗。初。め。手。巻。草。紙。候。者。是。出。仕。仕。置。去。り
 之。の。七。元。罪。具。外。重。科。十。分。其。外。は。業。末
 之。科。は。後。日。の。出。仕。仕。置。中。分。十。付。中。分。
 是。非。の。事。又。是。事。又。有。出。仕。仕。置。候。者。
 は。書。き。出。仕。仕。置。候。者。相。分。仕。置。候。者。同。小。
 以上

甲三月
 小田切末佐
 根名肥者

寛政三年六月十日
 東海關
 古依
 下

書面所奉候。手作。後。出。仕。仕。置。
 相分。傳。書。文。作。御。前。奉。候。
 申六月十日
 寺社奉候
 出馬。候。者。候。

書場仕置附

書面。伺。通。候。者。仕。置。
 申六月十日
 小田切末佐
 根名肥者

- 一 田邊。候。又。是。事。候。者。仕。置。 遠。信
- 一 魚。一。信。候。者。仕。置。 重。致
- 一 構。外。仕。置。仕。置。又。仕。置。 重。致
- 一 使。先。仕。置。仕。置。 重。致
- 一 但。一。信。候。者。仕。置。 重。致
- 一 右。田。邊。仕。置。 遠。信
- 一 但。一。信。候。者。仕。置。 重。致

一 為傷亡逃去後中合又の言入三三逃去といふ
 際し居後難を思事不逃去者に自作
 此等異例の准一を不逃去に合分改
 之難い事又市定先例の具合且事
 出致し入の逃去在りとの言の事場
 外者或は他は物に夜入言場り
 之の職業之種又十分不相用との
 難し其始末亦自誤りし事十分
 下致右の外に向後起るは事無先例を
 合其語未及身中分移り

寛政九年六月
 宋女房出立
 法外

九十 根巻肥者由任直相伺の言着小御使遣法
 誰接分明は外十降不致自快出言不致接
 向由任直言身中十年分言の候は道

誰接致候事其上入事は候は道
 候は同の通り死罪十分は候は道
 候は大切の事言接伺の由は事義
 候は有り候は道たとの罪状明白
 人自快不致を接伺も不及由任直十分
 候は容易なる事、上條に事付候は
 引用は候は道不致は各付候は道
 候は候は道相成候は道

寛政九年六月
 法外
 法外

松平世後

九十一 去、申奉疏疎。清國、封王使渡本、出致候
 業権長宗候、他國要領、候中山王領、
 事、立小宗、候、長宗、表、外、此、

一 逃致し外の上人は身場は老い者
 因り被り又余能逃去り死罪
 但自辨候一り言致し上
 法外
 一 入言又言致し上言逃致し外身場
 老い者逃去自辨候一り言遠

山傳其間而... 亦及... 實其... 不念... 漢見... 乃... 橫荷... 而... 以... 以... 其... 共... 有... 石...

但... 以... 而... 亦... 相...

- 一 口...
二 年...
一 所...
一 政...
一 亦...
一 後...

向より傾き、不念多き為るに、亦不慮其
右、通二相親也

二月

文化三年九月廿日

去丹大炊師後出也

松平左衛門

九十三 大川大塚古住遺相向、平清市太市儀存者、事并

有、公人使先、之、通、死、罪、軍、傳、其、傳、馬、其

、貨、物、を、多、く、て、後、世、に、し、り、者、有、取、家、車、り

所、加、言、路、取、採、の、同、外、一、事、に、ま、た、信、に、し、り、者、り

乃、後、之、市、儀、に、通、入、事、に、上、致、中、外、の、具、事、儀、存

者、候、御、取、中、軍、の、儀、に、一、群、取、家、取、の、儀、取、

籍、を、た、し、り、事、に、御、取、中、軍、の、儀、に、右、の、儀、に、由、取、り

家、來、信、先、に、石、信、を、制、す、可、也、事、に、上、三、三、三、三、三、三、三、三、

志、心、取、り、存、者、り、御、取、中、軍、の、儀、に、相、取、取、取、取、取、取、取、取、

其、由、傳、り、海、儀、に、事、取、事、一

文化四年二月廿日

松平左衛門

九十四 荒尾但馬吉田浦川水戸他家才太儀、水戸水戸

引渡、儀、松平加賀、外、前、の、例、取、取、取、取、取、取、取、取、

引渡、儀、松平加賀、儀、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、

松平加賀、儀、不、限、外、の、引渡、儀、例、有、之、宛、取、取、取、取、取、取、取、取、

士、申、奉、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、

と、先、例、の、方、亦、有、り、事、に、不、相、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、

引、合、有、り、事、に、上、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三、

公、義、に、依、任、重、相、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、取、

一、海、の、取、

者、領、事、に、相、取、

儀、に、右、の、類、取、

懲、戒、に、不、相、取、

儀、水、戸、儀、引、渡、儀、取、

得真意外事

水戸殿 佛城附

水戸殿之市家来太保十次市合子盛
取小件吟味相傳小舟舟作立小通
十次市候テ荒尾但馬方方吟味有
者ノ事ニ付 公候仕置ノ通中舟
ニ云候

右ノ通中舟上小妻浦ニ候ハ但馬方方ニ奉合

二月

荒尾但馬方

水戸殿之家来太保十次市合子盛取小件
吟味相傳小舟相傳小舟舟作立小通
舟作舟方方吟味有者
事ニ付 公候仕置ノ通中舟ニ云候

番細ニ候ハ其方方ニ奉合候 佛城附

者。相傳小舟十次市合子盛取小件

別紙書付ノ通中舟ニ云候ハ其方方

二月

別紙

死罪

太保十次市

